

2007/3/9 7 t hライブ時の封印解く

KOHMORI 直人

7 t h アベニュー ライブ本番前、KOHMORIのリハーサルを終え私(直人)一人楽屋に戻った時の事でした。

楽屋には2箇所の扉があり、ステージに近いほうの扉近くから、私を呼ぶ声が・・・「鈴木さ～ん・・・？」

と呼ぶ声がしたので振り向いたが、誰もいない？確かに私を呼ぶ声が聞こえたんだが？・・・振り向いた扉と壁一面に張られた色々なバンドのステッカーや広告のステッカーが所狭しと貼られていた。

その何十、何百枚のステッカーの中から私は、ただその1枚だけを凝視していた。

C O L D ・ Z I N と書いてあるステッカーだけがはっきり見え他のステッカーは雲に隠れた様にぼんやり、かすかに見えていた。どのくらい時間が過ぎたか分からないが、私の身体は微動だもできず、声も出ず、しばらく放心状態だった事は確かです。

私は声の出ない叫びを誰か来てくれ・・・早く・・・誰でもいいから・・・

と想っていたら、少しづつ身体が動かせるようになりました。でも完全ではなく誰かに身体を押さえつけられ、羽交い絞めにされているような重苦しい感じでした。

C O L D ・ Z I Nは4人組のロックン・ロールバンドです。今から20年くらい前になりますが、私の部下で優秀なドラマーがいました。彼は一回り若いのですが当時は仕事も、音楽活動もバリバリこなす男でした。

全国ツアーでライブをするほどのインディーズ・バンドです。もちろん7 t hアベニューでも何回もライブをしていました。私もよく観に来ていました。彼の最後のライブもこの7 t hアベニューでした。

当時はMM21地区が建設ラッシュで休みも無く働いていた時代でした。私は部下達に明日の休日も仕事をしてもらうよう一人一人声を掛け休日出勤をお願いしていました。

彼にも休日出勤をお願いしましたが、明日の休日は彼女とデートの約束をしているので、と言われたのでデートじゃしょうがないね、と私は返事をしました・・・

休日の朝早く、私の携帯電話が鳴りました。本社から彼が交通事故で亡くなったと。

彼は彼女の家バイクで迎えに行く途中、右折してきたトラックに衝突し即死状態でした。

彼の死を聞いたときも放心状態で残酷な運命を味わいました。前日に休日出勤を無理やりでもお願いしていたなら、彼は今でも生きていたんだと、自分を責めていました。

そんな感情も時が過ぎていくに薄れ、いつしか彼のことを忘れていました。

7 t hアベニューでC O L D ・ Z I Nのステッカーを見るまでは、でも彼は私の事を忘れてはいなかった。

一人になった私を呼んでくれた、会いたかったんだと、身体は重苦しく、涙は溢れ、嬉し

い、・・・いろんな感情が頭の中をグルグル駆け巡っていて、これからライブをやる体制には程遠く、メンバーにも話せないまま、本番のライブを行いました。

結果は散々な事はライブを観に聴きに来て頂いたお客様が一番分かっていると思います。ライブ本番中も私の異変に藤原も福永も気付いて、二人とも巻き添えてしまった事が残念です。

・・・現在彼が生前にレコーディングしたカセットテープは今でも大切に、お守りにしています。